

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「生徒たちが『入学してよかった』と思える学校、保護者に『入学させてよかった』と思っただけの学校、卒業生がすばらしい『母校』と思える学校、地域の方に『一緒にがんばろう』と思っただけの学校」をめざす。

- 1 生徒の自己実現に向けた教育活動により、夢と志を持った生徒を育成する。 (目標あるキャリア教育)
- 2 人権尊重の精神に基づいて、モラルやマナー面での社会的な人間力を育てる。 (人権教育をふまえた社会的実力の育成)
- 3 地域や保護者等との信頼に基づいた連携関係を構築して教育活動を展開する。 (社会に開かれた学校づくり)

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の定着

- (1) 工夫ある計画的な展開やICTを活用した授業の拡充等により魅力ある授業づくりを推進し、学びの意欲を高め基礎学力の定着を図る。
- (2) 授業研究委員会を核に「SK勉強会」などの授業研修を実施することで校内の研究授業等を充実させ、経験の多少によらず授業力の向上を図る。  
\*生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い。」(H30:59.6, R1:64.3, R2:69.5%) に関して令和5年度には75%以上をめざす。  
\*生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい。」(H30:55.4, R1:57.1, R2:63.6%) に関して令和5年度には65%以上をめざす。

## 2 多様な進路の実現

- (1) 多様な進路を実現するための進路支援システムを確立し、早期に進路目標を意識させる指導を行う。  
\*生徒が卒業後に自己実現に向けて準備をするケースを除き、進路未決定率 (H30:2.9, R1:4.4, R2:3.4%) に関して、令和5年度には2%をめざす。  
\*大学進学を希望する生徒に力をつけて、令和5年度には一般的な難関私立大学・国公立大学にチャレンジする生徒5名以上を育てることをめざす。

## 3 社会に貢献する人材の育成

- (1) 基本的生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組みを推進するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。  
ア 社会的なモラルやマナーを遵守することの大切さを理解させて、社会的な実力を育成する。  
イ スクールカウンセラー (SC) やスクールソーシャルワーカー (SSW) を活用した教育相談体制を確立させ、個々の生徒への支援体制を充実させる。  
\*生徒向け学校教育自己診断における生活規律等基本的習慣の指導確立項目 (H30:61.4, R1:66.4, R2:72.3%) に関して、令和5年度までに75%をめざす。  
\*生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目における満足度 (H30:58.5, R1:63.7, R2:65.0%) に関して、令和5年度には68%をめざす。
- (2) 特別活動を充実させ生徒の参加を促進することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに、学校への帰属意識を高める。  
ア 学校行事や部活動において、生徒の自主性を高めるとともに、集団の中で他と調和しながら行動する能力を育成する。  
イ 「堺上高杯」等において地域や小中学校とのさらなる連携を図ることを通して、生徒に自尊心とボランティア精神を育む。  
\*生徒向け学校教育自己診断における行事に対する満足度 (H30:66.3, R1:67.9, R2:70.9%) に関して、令和5年度には75%以上をめざす。  
\*生徒の入部率を (H30:36.7, R1:41.2, R2:44.7%) を毎年1ポイント以上引き上げ、令和5年度には48%以上をめざす。

## 4 校内運営体制の改善と人材の育成

- (1) 組織業務の見直しを行い、精選と簡素化、業務量の検討を行なうことで体制の強化と「働き方改革」に即した労働時間の適正化を図る。
- (2) 本校独自の「SKミーティング」「SK勉強会」等を開催し、教員力育成事業を推進することにより育成システムを構築する。

## 5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進

- (1) 地域の中学校等への広報の充実に努め、更なる連携を推進する。  
\*知名度を高め魅力を発信すべく「堺上高杯」への参加校及び中学生数 (H30:49校852名, R1:33校758名, R2:中止) に関して、新規の参加校開拓などをしながら令和5年度まで同水準の数値を維持することをめざす。
- (2) 保護者が積極的にPTA活動に参加できるよう、PTA活動内容の精査を行いさらなる充実を図ることにより、学校の教育活動への理解を深める。  
\*PTA主催の研修への参加率 (H30:63.6, R1:50.0, R2:66.7%) に関して、令和5年度には70%をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学習指導について】</b></p> <p>・「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定回答は87.7% (18.2%↑)、「授業は、わかりやすく楽しい」は81.1% (18.0%↑)と昨年度より大きく向上した。「教育情報部」及び「授業研究委員会」を設置し、ICTの効果的な活用と学習内容に達成感を持たせることができるような授業づくりに全教員で取り組んだ結果といえる。</p> <p>・また、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」に対する肯定回答は85.2% (20.5%↑)となった。思考力や表現力を重視した学習指導にも取り組んだ成果と言える。次年度より観点別評価が導入される。引き続き授業研究に取り組み、わかりやすく質の高い授業づくりを推進していく。</p> <p><b>【生徒指導について】</b></p> <p>・生徒の生徒指導に関する認識「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力をいれている」の肯定回答は86.8% (14.5%↑)、「学校生活についての先生の指導は納得できる」は78.5% (15.4%↑)と増加傾向にある。一方、保護者対象の項目「学校の生徒指導の方針に共感できる」の肯定回答は68.0%と生徒の回答に比べて低い。「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育成する」とった本校の方針を保護者にも理解していただき、協力を得ながら指導を進めていきたい。</p> <p>・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定回答は生徒79.5% (14.5%↑)、保護者78.9% (3.8%↑)と増加傾向にある。生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、個々の生徒への支援体制を今後も充実させていく。</p> <p><b>【進路指導について】</b></p> <p>・生徒の進路に関する意識は年々高くなってきており、「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定回答は92.7% (15.0%↑)、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定回答は89.0% (16.1%↑)となった。一方、保護者対象の項目「学校は進路に関して家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」の肯定回答は57.0% (0.7%↑)と生徒の回答に比べて低い。連絡プリント等が家庭まで届いていない可能性もあり、情報の伝達方法については今後の課題として検討していく。</p> <p><b>【生徒会活動について】</b></p> <p>・「文化祭は、楽しく行えるよう工夫されている」の肯定回答が87.2% (11.6%↑)と増加している一方で、「生徒会活動は、活発である」の肯定回答は63.7%、「部活動に積極的に取り組んでいる」の肯定回答は56.8%となっている。コロナ禍で入学後の部活動体験が制約され、入部する機会を逸してしまった可能性がある。部活動や生徒会活動は生徒の自主性を伸ばし、社会的な実力の育成に資する重要な活動だととらえている。本校の魅力のひとつとなるよう、「堺上高杯」をはじめとする取組みの充実を図っていく。</p>	<p>第1回 (6/25)</p> <p>○保護者からの体育大会に関しての意見書について</p> <p>・緊急事態宣言下においては学校全体で行う体育大会は中止または延期という大阪府の指示があったのでやむを得ないかと思う。</p> <p>・行事を通して目の前の生徒がよい思い出を作り、それが自らの生き方にも影響する。行事を「ゼロ」にせず、学年ごとの体育大会ないしはスポーツ大会という形でやるという学校の方針でいいと考える。</p> <p>第2回 (11/27)</p> <p>○授業改善と広報について</p> <p>・平面的ではなく立体的な授業が行われていると感じた。タブレット端末を活用しながら先生方それぞれ熱心に授業を行っておられる。生徒も先生の指導されることに食いついていこうと思っているし、先生方も新しいことを試そうという気概が見えていい授業をされている。生徒たちに何を教えて育てようかというような意気込みを感じた。</p> <p>・体育・芸術・家庭など実技を伴う授業においてICTをどう活用していくのかなど工夫をされると、上高の特色、PRになるのではないかと思う。良い学校であるということを外にどのように発信するのかということだ。中学校とも情報の連携ができると良いと思う。</p> <p>第3回 (2/15)</p> <p>○生徒の育成と広報について</p> <p>・非常によく頑張っておられるという印象がある。中学生は私立高校に比べると公立高校の情報を知らないのでは、是非PRをお願いしたい。</p> <p>・最近就職した生徒については、もう少し元気があっても良いと思うこともある。進路先に関わらずコミュニケーション力を意識することは必要である。入学してくる生徒には3年間どう育てて卒業させるかということもPRする必要がある。</p> <p>・中学校の進路指導よりも先に塾からの声かけがあり、その中で上高に行きたいと思わせる仕掛け作りができるとよい。上高杯、部活動の成果、その他インパクトの強いものがあると印象に残りやすい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着	(1) ICT を活用した工夫ある授業作りの推進  (2) 組織的な授業改善の推進	(1) ・新型コロナウイルス感染症対策及び1人1台端末の導入に向けて、本校生徒の実態をふまえたうえで、学習内容に対して達成感を持たせることができるように、効果的な場面でのICT機器の活用、対話的な視点に基づく学習活動などを行う。そのことを通して、工夫ある教科指導による授業づくりに取り組む。  (2) ・新学習指導要領を踏まえて「観点別学習状況評価」を進めるとともに、授業研究委員会を核として授業実践に向けた教員研修の実施や、授業見学及び研究協議を充実させ、生徒の学習活動に関する課題を教員が共有化することにより、同僚性を活かした授業改善を図る。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い。」を70%以上に。[69.5%]  (2) ・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」を64%以上に。[63.6%]	(1) ・多くの教員がICTを活用した工夫ある授業づくりに取り組み、休校時においてもオンラインを活用した授業を実施できる体制が整った。「教え方に工夫をしている先生が多い。」の肯定回答は87.7%となった。生徒向け授業アンケートにおいても全項目で評価が向上した。(◎)  (2) ・授業研究委員会を核として「ICTの効果的な活用、目標を明確にした指導と評価」をテーマに研究授業を実施。授業見学や研究協議など同僚性を生かした授業改善が定着しつつある。「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率は81.1%と10%以上向上した。(◎)
2 多様な進路の実現	(1) 生徒の実態に即した、早期に目標を意識させることによる多様な進路指導の充実	(1) ・外部講師等による進路講演会の実施や就職支援コーディネータの活用、内定者指導、進学講習など、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。  ・4年制大学、医療看護系、就職関係など個々の進路に応じた個別講習を実施する。  ・漢検、英検、パソコン検定の受検促進を図る。	(1) ・実力的に難しい私立大学、国公立大学にチャレンジする生徒数について前年度より増をめぐす。[3名]  ・進路に関する講習参加者に関して同水準を維持する。[78名]  ・R1の漢検19名、英検30名、R2のパソコン検定44名の受検数について、増加をめぐす。	(1) ・第一希望の進路実現に向け、6名の生徒が一般入試までチャレンジした。今後も早期に目標を意識させ最後まで粘り強く努力できる生徒の育成を図る。(○)  ・進路別講習の参加者は91名だった。今年度は新たに公務員講座を開講し、1名の生徒が公務員試験に合格した。(○)  ・英検は8名、パソコン検定は44名が受検した。コロナ禍で、漢検は校内実施ができなかった。(△)
3 社会に貢献する人材の育成	(1) ア基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上  イ 個々への支援体制の強化  (2) ア 特別活動の活性化  イ 部活動等における地域や小中学校などとの連携	(1) ア・遅刻回数による段階指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導システムを継続しつつ、個々のケースの原因の解決にあたることにより、遅刻数の減少に取り組む。  ・進路実現などとも関連させて、服装等身だしなみの指導の強化を図る。  ・自転車通学者が非常に多い状況を鑑み、大阪府の自転車条例をふまえ、自転車事故防止やマナー向上のための講習会を、警察等と連携して実施するとともに、駐輪指導をはじめとする自転車関係の指導を強化する。  イ・SCとSSWを活用した教育相談体制を充実させ、個々のケースに迅速に対応できる能動的な組織の確立に努め、外部機関との適切な連携を図る。  (2) ア・新型コロナウイルス感染症対策をはじめ体育大会や文化祭等の学校行事のあり方に工夫を加えて、生徒の学校生活の充実を図る。  ・堺上高杯での中学生への奉仕活動により、本校生徒自身のマネジメント力を高めるとともに、自己肯定感を醸成する。  ・入学後の体験入部等の実施方法を充実させて、1年次の加入率を上げる。  イ・「堺上高杯」を組織的に充実させ、地域の学校との連携を深める。  ・地域や小学校などのイベントへの参加要請があれば、積極的に参加して、地域の方々と交流を図り、学校を理解していただく。	(1) ア・遅刻統計の総数で前年度(6800回)の10%減をめぐす。  ・生徒向け学校教育自己診断での生活規律等基本的習慣の指導確立の項目について同水準の維持をめぐす。[72.3%]  ・自転車事故報告件数について、0件をめぐす。[5件]  イ・生徒向け学校教育自己診断での相談できる先生がいるについての肯定度を65%以上に。[65.0%]  (2) ア・生徒向け学校教育自己診断の行事満足度を70%以上に。[70.9%]  ・本校部員が中学生に奉仕する堺上高杯の現状を維持する。  ・1年次の加入率50%以上をめぐす。[52.7%]  イ・第6回「堺上高杯」を計画的かつ組織的に実施し、同水準の維持をめぐす。(R1は758名、R2はコロナウイルスの影響で実施せず)  ・要請等があれば学校行事等と重ならない限り、積極的に参加する。(R1は3回、R2はイベントすべて中止)	(1) ア・遅刻回数による段階指導と、個々の生徒の原因解決にあたることにより遅刻数は年々減少傾向にある。遅刻統計総数は5850回と前年度比10%減となった。(○)  ・教育自己診断の肯定回答は86.6%と増加した。社会的な人間力を育成するにあたり、継続して生活規律等基本的習慣の確立に向けて指導を行っていききたい。(◎)  ・自転車事故報告件数は5件だった。自転車事故防止等の交通安全指導が不十分だった。継続して自転車関係の指導強化を図りたい。(△)  イ・教育自己診断の肯定回答は78.3%と増加した。コーディネータを中心とした相談体制により、課題を抱えた生徒について、タイミングを逸することなく適切なアプローチの実行が可能となってきた。急増する教育相談に対して、生徒の状況把握を共有し個々のケースに迅速に対応できる体制の強化を図っていききたい。(◎)  (2) ア・教育自己診断は77.7%だった。コロナ禍で体育大会は学年ごとに実施。文化祭においては工夫をしながら開催することができた。今後も行事を充実させることで、学校生活の楽しさを生徒に実感させたい。(◎)  ・生徒主体の活動として生徒が受付から審判等を務め、感染対策を徹底しながら地域の中学生を招待して堺上高杯を開催することができた。(○)  ・部活動1年次の加入率は47.0%であった。緊急事態宣言下で入学後の体験入部等が実施できず加入率が思うように伸びなかった。引き続き部活動の活性化に取り組みたい。(△)  イ・7月にソフトテニスの部、8月にサッカーの部、12月に女子バレーボールの部を開催し、延べ31校から約600名の中学生が参加。コロナ禍で開催できなかったクラブもあるが、地域の中学校との連携を図り本校への関心を高めていく。(一)  ・地域や小学校などのイベントがすべて中止となり、昨年度に引き続き交流を図ることができなかった。(一)

## 府立堺上高等学校

<p>4 校内運営体制の改善と人材の育成</p>	<p>(1)業務の精選などによる働き方の見直し</p> <p>(2)教員の教育力育成</p>	<p>(1)・業務内容を整理し、分掌改編を行うなど、精選と簡素化、業務量の検討を通して組織体制の強化と「働き方改革」に即した労働時間の適正化を図る。</p> <p>(2)・職員研修や独自のミーティングを実施して分掌業務や担任業務等に関する教員の教育力の向上を図る。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症に係る対応や人権研修等の教職員研修の実施に際し、外部講師を積極的に招聘するなどして、生徒の自他尊重の精神向上に結びつく（講師例：SC、SSW）等、学校の実情に即した内容となるよう創意工夫を行う。</p>	<p>(1)・業務内容の精選に向けて、経営会議や運営委員会などで検討を行うとともに、一定時刻以降の業務申告制を管理職が毎日実施し、時間外勤務月80時間以上の延べ教員数を17人以下にする。[17人]</p> <p>(2)・定例の職員研修以外に独自の「SKミーティング」を3回以上実施する。[3回]</p> <p>・教員向け学校教育自己診断での校内研修の教育実践有効性を問う項目で同水準の維持をめざす。[70.3%]</p>	<p>(1)・時間外勤務月80時間以上の延べ人数は29人となった。システム変更があり昨年度と単純比較できないが、引き続き、面談等を行い働き方改革に即した労働時間の適正化を図っていく。(R1:36人、R2:17人) (△)</p> <p>(2)・今年度の「SKミーティング」は内容を精選し3回の実施とした。首席を核に学年間の連携をはじめ初任者等の経験の少ない教員の育成を図ることができた。教育自己診断「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」83.7%（昨年67.6%）。(○)</p> <p>・「愛着の問題」をテーマに、6月と8月の2回にわたりオンライン研修を、2学期は10月にLGBTQ+について、12月に貧困問題についていずれも外部講師をお招きして職員研修を実施した。どの研修も本校の課題に即した内容で、職員間で認識を深めることができ、今後の教育活動に生かせるものであった。教育自己診断「校内研修の教育実践有効性」は95.3%。(◎)</p>
<p>5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進</p>	<p>(1) 広報の充実と地域他校種とのさらなる連携の推進</p> <p>(2) 学校理解に結びつくPTA活動のさらなる充実</p>	<p>(1)・出身中学校に対しての広報に努めるとともに、3月に新入生の状況把握を行い個別の支援の一助とする。</p> <p>・新着情報、フォトギャラリー等ホームページの内容を充実させることで、タイムリーに情報を発信する。</p> <p>・機会あるごとに校長によるブログを発信することで、本校の教育活動についての理解を深める。</p> <p>・連携した取り組み（イベント等への参加など）の要請があれば、積極的に参加して交流を図る。</p> <p>(2)・PTA主催研修の内容の見直し検討を実行委員会などと一緒にしながら、参加促進を図るとともに、体育大会と文化祭の折に、PTA保護者に積極的に関わっていただくことなどを通して、保護者の本校への理解を深めていただく。</p>	<p>(1)・出身中学校と連絡をとり、資料の配付をするとともに生徒の状況把握を行う。</p> <p>・本校 HP のアクセス数で同水準をめざす。[80603件]</p> <p>・校長ブログを60回以上更新する。</p> <p>・学校教育自己診断の該当項目での肯定的回答値60%をめざす。[R1は55.3%、R2は中止]</p> <p>(2)・PTA主催の研修参加率について、定員の68%以上をめざす。[66.7%]</p>	<p>(1)・3月に中学校訪問を行って、新入生の状況把握を行った。(○)</p> <p>・現時点でのアクセス数は71935件。昨年度は生徒向け緊急連絡をHPで行っていたが、今年度は生徒端末に直接配信できる体制が整ったため、本校生徒のアクセス分が少なくなったと考えられ、おおむね目標は達成したと判断できる。(R1:35857件、R2:80603件)(○)</p> <p>・校長ブログは60回更新した。(○)</p> <p>・地域と連携したイベントはコロナ禍のためすべて中止となった。(ー)</p> <p>(2)・参加率は67.5%でわずかに目標に達しなかったが、11月のPTA教養講座は好評にて終えることができ、本校への理解を深めていただくという目標はほぼ達成したと判断できる。(○)</p>